

内視鏡領域の IHE

日本IHE協会 内視鏡委員会

天野 敦之

(オリンパスメディカルシステムズ(株))

目次

- IHE内視鏡とは
- 標準化活動の経緯と現状
- そもそも何故内視鏡のIHEが必要か？
- IHE内視鏡のフロー
- 内視鏡プロフィールの見直し
- 今後の展開

IHE内視鏡とは

- 内視鏡分野→消化器、気管支、外科・・・
 - 当面は、消化器内視鏡分野にフォーカス
- 使用する標準規格
 - HL7
 - DICOM

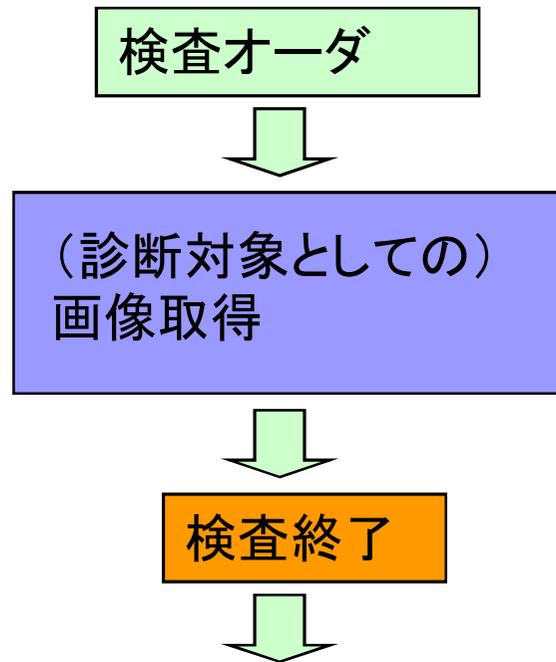
標準化活動の経緯と現状

- 2003.09 WG発足 経済産業省の委託事業
 「相互運用性実証事業」の内視鏡部門
- 2005.12 TF Vol.I(統合プロフィール)
- 2006.09 英語版作成 IHE-International に紹介
 – その後 Vol.II(トランザクション)検討 –
- 2008.08 オータ連携 (JAHIS内視鏡データ交換規約Ver.1.0)
- 現在 実施情報連携 (JAHIS内視鏡データ交換規約Ver.2.0)
 内視鏡ドメイン設立申請

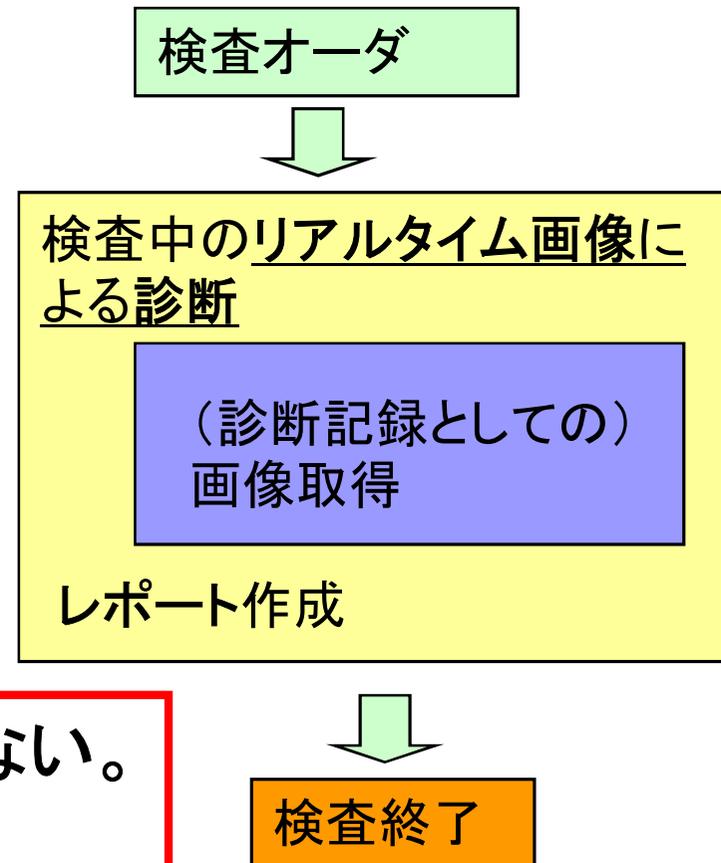
そもそも何故内視鏡のIHEが必要か？

— 放射線との違い: ワークフロー

放射線の場合



内視鏡の場合

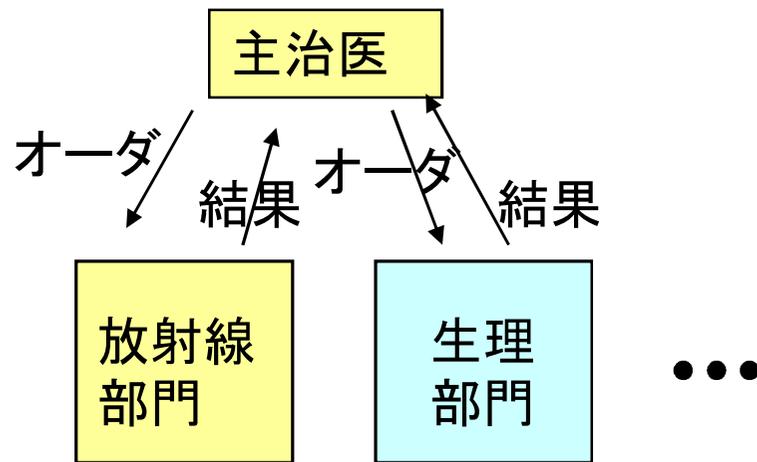


- 画像は必須というわけではない。
- レポートは必要である。

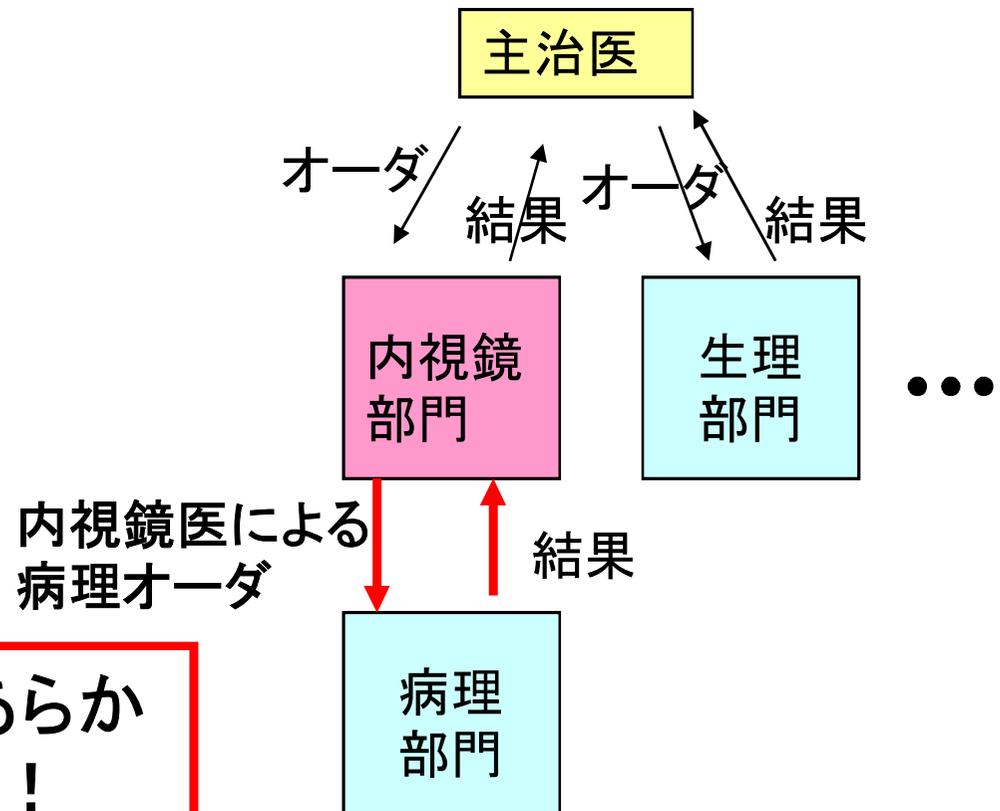
そもそも何故内視鏡のIHEが必要か？

— 放射線との違い：他部門へのオーダー

放射線の場合



内視鏡の場合(生検を行った場合)

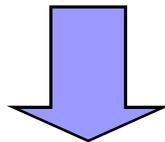


病理部門へのオーダーをあらかじめ織り込む必要がある！

病理部門との連携

■ 当初の考え方

- 内視鏡部門から病理部門に対し直接病理オーダーを行う



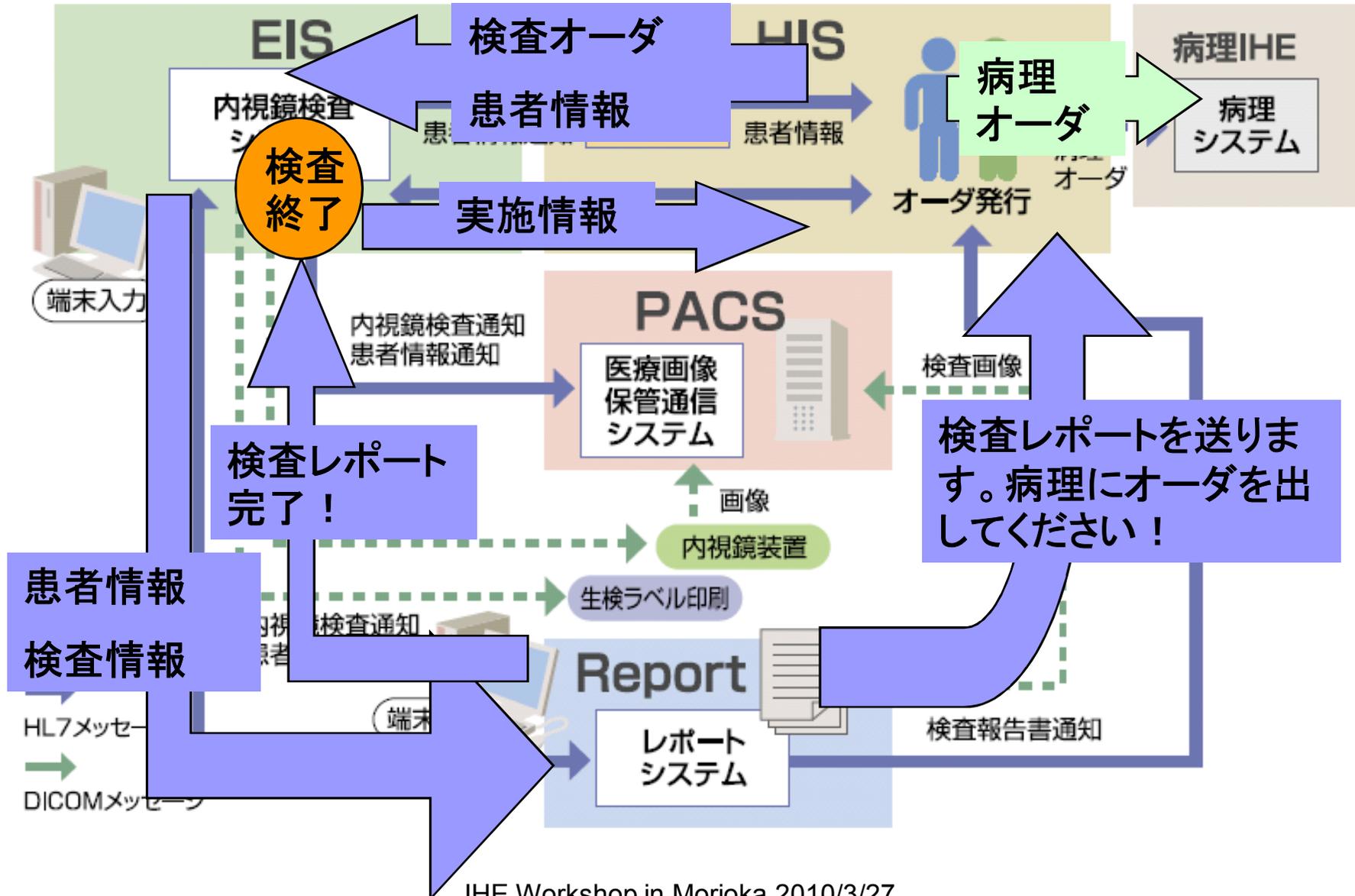
■ 現在の考え方

- 内視鏡部門から直接オーダーを出すことはしない
- 病理部門へのオーダーはHISが行う
- 内視鏡部門からHISに対し、病理オーダーを行うのに必要な情報提供を行い、トリガをかける

他部門にも同様のケース→オーダーが入り乱れて管理が大変

HISからもオーダーしてしまったら？

IHE内視鏡のフロー “ENDO”



内視鏡統合プロフィールの見直し



放射線の統合プロフィールである
SWF以上に壮大な構想

→どこから手をつけるべきか？



統合プロフィールの見直し

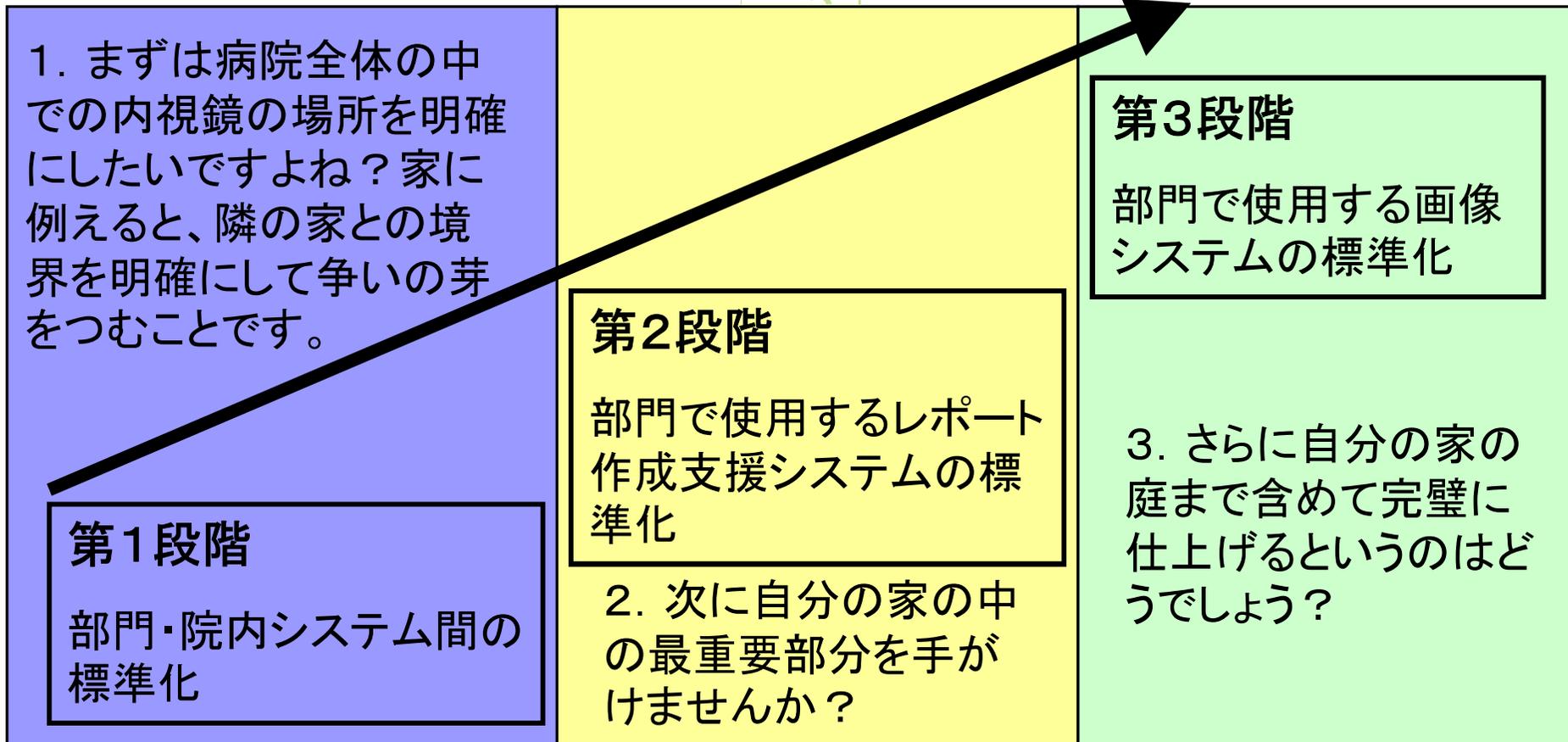
－ 考え方 －

- ゴールは当初の統合プロフィール“ENDO”と同じ。
- 実装ロードマップに基づき統合プロフィールを整理する。
- 内視鏡独自でない患者情報のやりとりなどはITIの採用を考える。

実装ロードマップ

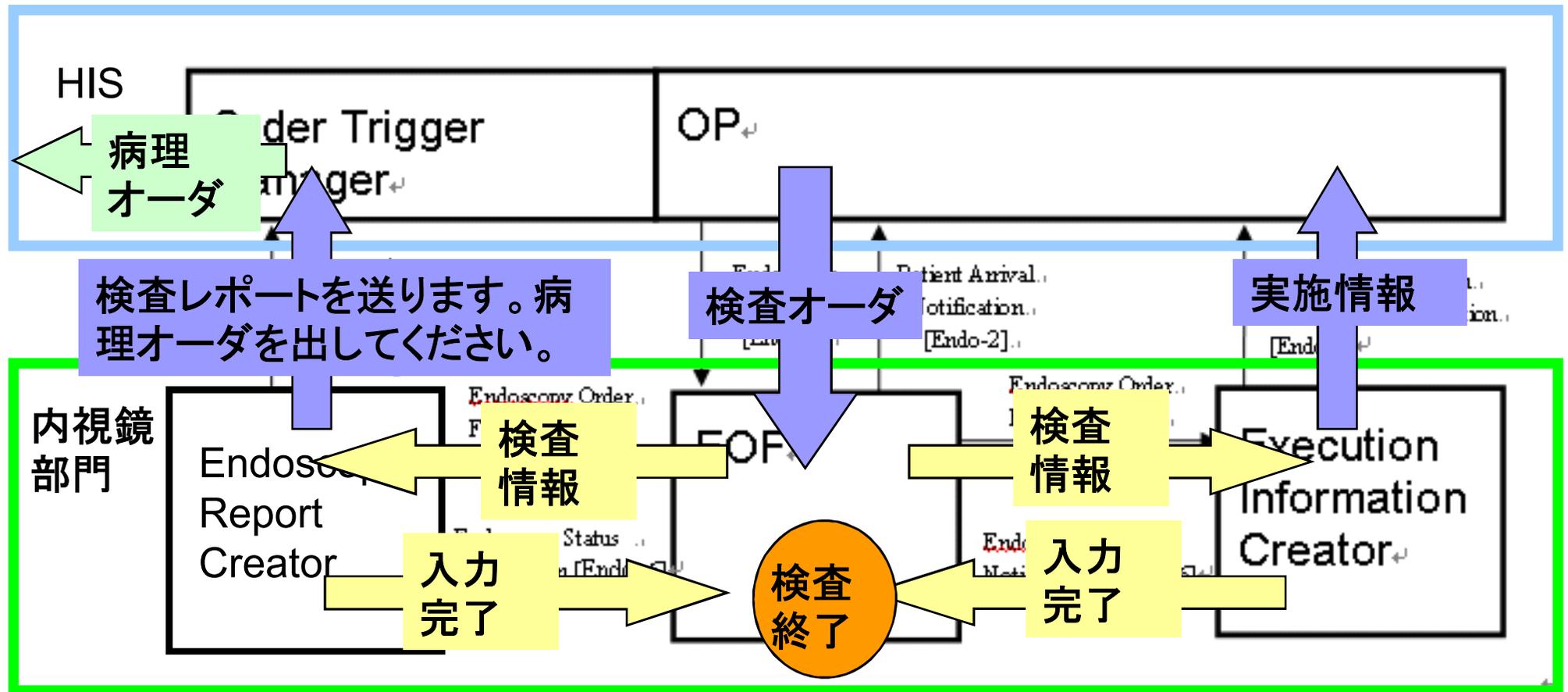


ゴール: アクタ間が標準化され部門内外が有機的に結合している美しい世界



この範囲をひとつのプロファイルとし、先に取り組む

新しいプロファイル“EWF”（検討中）



- 患者情報はITIのPAMを採用

今後の展開

- IHE内視鏡TF Vol.I、Vol.IIの整備
- コネクタソンへの参画
 - ベンダが集まり相互接続性を確認しあう場
 - 部門ベンダ、HISベンダへの標準の浸透
- グローバル標準化
 - 内視鏡ドメインの申請

ご清聴ありがとうございました